

人文社会序論「現代日本学入門」

第13回 日本学の方法論 (5)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 現代日本を研究すること

「現代日本学」と「現代日本の研究」

- 「現代」とは (←今回はこの話)
- 「日本」とは
- 「研究」とは

2 「現代」を研究するとはどういうことか

2.1 具体例の紹介: 表情の解釈に関する研究

口頭コミュニケーションに影響する非言語的要素

例: 「悲しい出来事について笑いながら話している人」をみたとき、私たちは何を読みとめるのか?

「日本人の笑みをどう受け止めるか: 日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較」(東北大学文学部 2013年度卒業論文 (日本語教育学専修)).

- 2013年10-11月に調査
- 東北大学に在籍する日本人学生 (30人) と中国人留学生 (24人、N1/N2レベル) が対象
- 映像を見たあと質問紙に回答

2013年5-9月に放送されたテレビ番組から、9部分の映像を作成 (いずれも10秒程度)。5つはテレビドラマから、4つはトーク番組やドキュメンタリー番組から抜粋。ドラマのうちひとつは対象者の練習用に使用し、のこる8つの映像を調査に使用。

各映像について、つぎの手順を繰り返す:

- (1) 映像の登場人物やシーンについて説明
- (2) 映像を3回続けて視聴する
- (3) 1分間で質問紙に回答する

今回は「6. 震災」の映像について検討。

2.2 「現代」の境界線

「現代」(contemporary) ということばの意味 → 語源にさかのぼってみる

- 実際に存在している; はっきり見える; 生きている
- 時間 (tempor) を共有する (con-)

「現代」の範囲は研究者によって異なる。

2.3 境界の外側 (たぶん)

歌舞伎「寺子屋」(菅原伝授手習鑑) における「松王丸の泣き笑い」

- 「わかる」「わからない」のちがいはなにか
- 「わかる」ことの多義性

経験と訓練で境界を広げることが可能

3 測定機器としての研究者

理屈抜きで「わかってしまう」事柄について

- 「笑い」とは何か?
- 「あなたが私にあげたもの」はなぜおかしいのか?

想像力を広げるための理論や知識 ←→ 研究分野における知見の蓄積

4 外部データの必要性

直観と想像力と既存の知見だけでは研究は (ふつう) できない。

- 奇抜な発想で新しい主張をする → 「そんなことを考えるのはあなただけ」
- 他人と共有できそうな主張をする → 「知ってた」

新規でかつ説得力のある主張をおこなうには、何らかの「データ」(多くの人アクセスでき、おなじ内容が引き出せる情報) が必要。

- 自分の直観や既存の知見を検証するためのデータ
- 新しい発想を得るためのデータ
- 想像力のおよぶ範囲を拡張するためのデータ
- 他人と学術的コミュニケーションをおこなうためのデータ

5 宿題 (次回予習)

つぎの設問に答えてください。ただし、あなた自身がどう考えるかではなく、**一般的に** どう考えられているかを答えること。

- (1) 「少子化」とはどういう意味か
- (2) 「少子化」はどのような点で社会的な問題だと考えられているか